

季刊

はまかせ



C O N T E N T S

- 専門医の立場から
知ってほしい、大腸がんのこと
—大腸がんの最新情報と治療法—…………… 植木 隆
- 浜の町病院褥瘡チームのとりくみ
…………… 竹内 聡
- 地域医療連携課だより
- 外来診療担当医一覧

理 念

『病める人の身になって、
心のこもった最良の医療を目指します』

基本方針

1. 福岡市の基幹病院として急性期医療を担います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携や役割分担による地域完結型医療を目指します。
3. 安全で質の高い医療を追求し、患者さんに満足していただける病院を目指します。
4. 患者さんの尊厳と権利を尊重します。
5. 新しい時代の医療を先取りし、常に研鑽努力します。

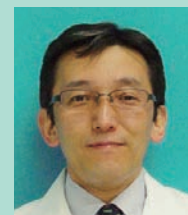
(写真撮影者 前田 祐也)

Hamanomachi Hospital

〒810-8539 福岡市中央区長浜3丁目3-1 TEL 092・721・0831 FAX 092・714・3262

<http://www.hamanomachi.jp>

知ってほしい、大腸がんのこと —大腸がんの最新情報と治療法—



内視鏡外科部長 植木 隆

大腸がんは身近ながんです

がんの患者さんは30年間に約2.5倍となり、今も年々増え続けています。大腸がんは新たに診断される患者さんの数が最も多く、年間で11万人以上約3.5分に1人の割合で診断されています。がんの家族歴に加え、肥満と飲酒や牛豚肉と加工肉をとることが、大腸がんにかかるリスクを増し、運動や食物繊維と牛乳の摂取はリスクを下げますので、日頃から体を動かし肉食に偏らない食生活を心がけましょう。

大腸がんは比較的治るがんです

大腸がんで死亡する患者さんの数は、男性では全のがんの中で3位、女性は1位です。しかし、死亡数は診断される数の半分以上で、がんと診断されても治りやすいがんの一つです。早い時期に発見して治療を受ければ治る確率は非常に高いので、大腸がんの発生が増える40歳以降は、早期発見のために便潜血検査や内視鏡検査を受けましょう。

血便があれば検査が必要です

大腸がんの症状には、血便、便が細くなる、便が残る感じ、下痢や便秘、腹痛、などがあります。がんで腸がふさがれ嘔吐やお腹の張りをきたす腸閉塞や、出血による貧血で発見されることもあります。血便は、痔と思われ放置されることがありますので、肛門から出血が見られたら胃腸科や消化器科などで大腸の検査を受けましょう。

治療は切除が基本です

がんと診断されたら、大腸がんの位置や広がり具

合ステージを調べるために、大腸内視鏡検査、注腸造影検査、CTなどが行われます。大腸がんの転移先はリンパ節が多く、肝臓、腹膜、肺が続きます。治療は、がんを取り除く切除が最も有効です。切除方法には内視鏡治療、腹腔鏡手術、開腹手術があり、体への負担はこの順に大きくなります。腸表層の粘膜にとどまるがんでは内視鏡での治療が可能ですが、粘膜より深く壁に侵入したがんでは、腸とリンパ節の切除を行い、残った腸の端と端をつなぎ合わせる手術が必要になります。

腹腔鏡手術が増えています

お腹を大きく切開する開腹手術に比べ、創が小さく手術後の痛みが少なく身体の回復が早い腹腔鏡手術が急速に普及しています（図1）。腹腔鏡手術は、お腹に1cm前後の穴を5個程度開けて行う手術法で、お腹の中で行われることは開腹手術と同じですが、手術翌日には歩行でき術後1週間程度で退院可能となります。腹腔鏡手術が行えるかどうかは、がんの進み具合や患者さんの状態を考慮して決められます。大腸がんの腹腔鏡手術は特殊な技術と経験が必要ですが、近年当院外科では80%以上で腹腔鏡手術を行っています（図2）。



図1 腹腔鏡手術後1か月の外貌写真

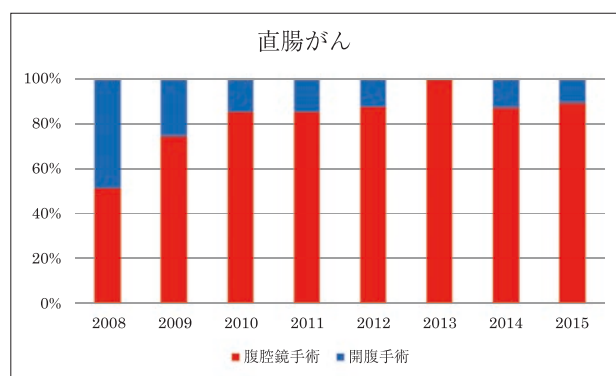
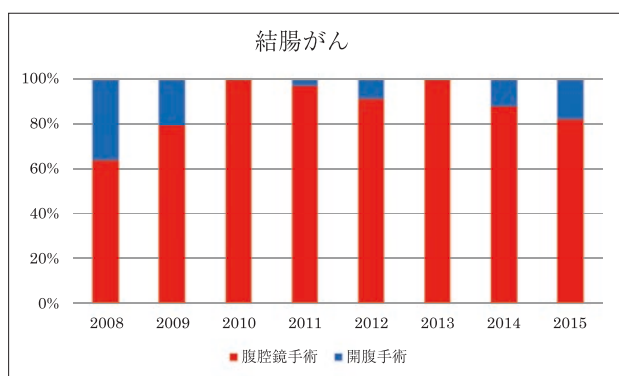
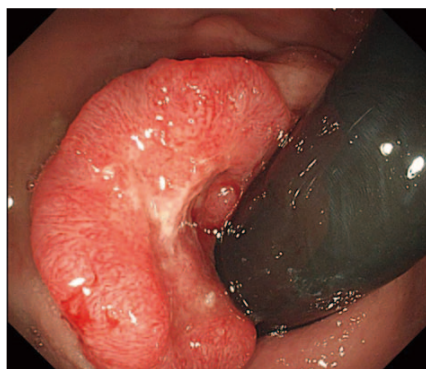


図2 当院における腹腔鏡手術の推移

肛門を残す工夫があります

肛門の入口から5-6cm離れている直腸がんでは通常腸と腸をつなげますが、より肛門に近い場合はがんと一緒に肛門を切除して人工肛門を作ります。手術前に抗がん剤治療や放射線治療を行い、新しい手術の方法を用いることで、肛門に近い直腸がんでも肛門を残す手術が可能になってきました。当院外科では、可能な限り肛門を残す治療を行っています(図3)。



A：治療前



B：抗がん剤治療後
(その後肛門温存手術施行)

図3 肛門にかかる直腸がんの内視鏡写真

進行したがんも治療できます

大腸がんは肝臓や肺に転移をしても、手術でがんを全て取り除くことができれば、完全に治る可能性があります。新しい抗がん剤や分子標的薬と呼ばれる新たな薬の効果が確認され、切除できない大腸がんの治療の成績は飛躍的に向上しています。当初切除できないと判断されたがんが、抗がん治療で切除できるようになる場合もあります。

安心して受診してください

当院では、全身状態の悪い患者さんや、がんが広がった患者さんにも可能な限り手術を行う“あきらめない手術”を目指しています。常に外科と内科が連携し、いろいろな治療法を組み合わせ患者さんそれぞれに“最適な治療”を提供しています。大腸がんという病気と、手術や治療法について十分な知識と経験を持った医師が担当していますので、安心して受診してください。



浜の町病院褥瘡チームの とりくみ

皮膚科部長 竹内 聡



はじめに

褥瘡（じょくそう）あるいは“とこずれ”は慢性疾患などによる長期の臥床（いわゆる寝たきりの状態）からくるもの、と思われることも多いですが、実際は数日、場合によっては数時間程度の皮膚組織の圧迫から発生することがあり、患者さんの生活の質（quality of life=QOL）を著しく低下させます。

褥瘡は予防、再発防止が肝心

褥瘡対策の最も基本的なことは予防と早期発見、治療です。ベッド、担架で搬送されるような状態の悪い患者さん、車いす生活を余儀なくされる患者さん、手術を含む長時間の処置が必要な患者さん、低栄養で極端に痩せている（あるいは過度の肥満の）患者さんなどでは、とくに注意が必要になります。

また、褥瘡発生の最たる危険因子は“以前に褥瘡になったことがある”ことです。問診、あるいは入院時の診察で臀部や背中、脚などに褥瘡を思わせる傷跡のある患者さんは褥瘡再発に対して、一層の注意が必要になります。

病変に応じて様々な治療選択肢を

褥瘡の局所病変の治療薬には外用剤、被覆材、VAC（局所閉鎖陰圧療法）治療など様々な選択肢があります（写真1）。壊死した組織を溶かす、創部が閉じる前提となる“肉芽”の形成を促進する、抗菌作用のある種々の外用剤や日進月歩の創傷被覆材など、病変の状態や排泄などによる創汚染の状態なども考慮し、治療に当たっています。必要な場合は皮膚切開やデブリドマン（壊死組織の物理的な除去）などの外科的処置を行いますし、VAC治療などの治療をすることもあります。



写真1. 褥瘡治療のための様々な外用剤や創傷被覆材、VAC療法キット

局所治療だけでなく、全身状態の把握、評価が重要

もともとの全身疾患の影響あるいは手術他の治療などにより栄養状態が低下し、過度のやせがある場合、身体の様々な部位で骨の突出がおこり、臀部に限らずに褥瘡が発生しやすくなっている場合もおおくみられます。そのような場合、先に述べた局所治療をその都度行っているとしても、褥瘡の改善あるいは再発防止は見込めません。現在あるいはこれからの治



写真2. 褥瘡予防、患者さん介助のための低反発マットやフッション、電動ベッド

療状況の確認しながら、栄養士の介在によるカロリー計算や摂取可能食物の提言などによる患者さんの栄養状態の改善、低反発マットやクッション、電動ベッド（写真2）、長時間の手術時のフットポンプによる踵の保護など、褥瘡発生を低下させる患者さんの状態、状況へと改善させることを心がけています。

チーム医療の大切さ

現在、皮膚・排泄ケア認定看護師（wound, ostomy and continence（WOC）ナース）、栄養士、皮膚科を中心に各病棟の看護師、医師と連携しながら、褥瘡の早期発見、予防に努めています（写真3）。疑いを含む褥瘡は発見後速やかに皮膚科受診とWOCナースによる状態確認がとられ、週に1回は看護師、栄養士、皮膚科医師による褥瘡患者さんの回診を行っています（写真4）。



写真3. 褥瘡回診の様子（写真は模擬患者さん）



写真4. 看護師、栄養士、皮膚科医師からなる褥瘡チーム（褥瘡回診にて）

スタッフ教育と地域連携 （他院、ケアマネジャー、ご家族）

前述のWOCナース（堺、柴田、立道看護師）による各病棟看護師への教育、技術指導、褥瘡に関する看護師、栄養士、医師による院内講演、月1回開催の症例検討含む専門委員会、回診での職種間コミュニケーションなど、褥瘡に対する理解が深まるような機会の提供を心がけています（写真5）。また、当院は急性期病院のため、褥瘡の治療途中での他院への転院やご自宅療養への切り替えなどがしばしばあり得ます。その際も創部のケアや注意点など、他院やご自宅でも迷うことなくただちに遂行可能で、かつ有効性のある簡便な付け替えを考慮するなど、地域連携を介して転院先、担当のケアマネジャーに添書で申し送り、あるいはご家族に直接わかりやすく説明したりしています。



写真5. スタッフ教育および相互の意思疎通も心がけています。

さいごに

当院に入院されるすべての患者さんで、持ち込み褥瘡の確認、長時間の処置中、後の確認、発生早期での気づき、栄養状態、飲食物摂取状態の確認、治療、再発予防などの業務を一専門部署ですべて行うことは大変困難です。このため、各病棟医師、看護師、栄養士、必要によってリハビリ、事務部門などさらなる多職種の方々と連携しながら、褥瘡チームとして患者さんのQOLを高めるため、日々活動をしています。

周産期等医療連携システムについてのお知らせ

浜の町病院では、地域の産婦人科の先生方との連携を強化するためのツールとして、周産期等医療連携システムを導入しています。

これは、同意を得られた患者さんの診療情報を、連携医療機関の先生方と当院でオンライン共有し、紹介・逆紹介をスムーズにするだけでなく、患者さんにとって安心できる、質の高い連携医療の継続提供を目指すものです。

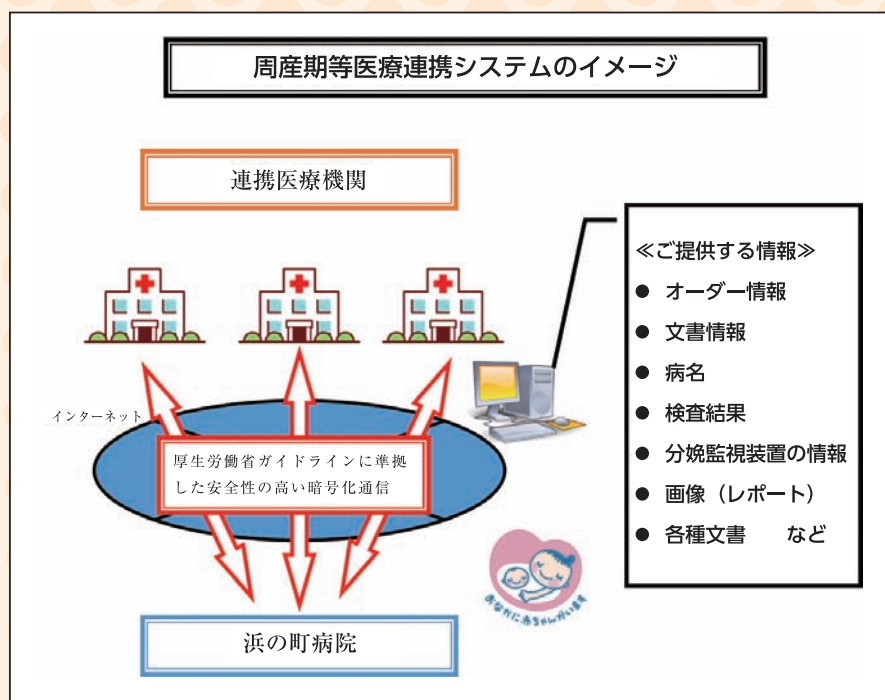
※周産期等医療連携システムに関する詳細については、下記窓口にお尋ねください。

地域医療連携課

092-721-9991 (直通)

情報企画課

092-721-9766 (直通)



第8回 浜の町病院 医師に対する緩和ケア研修会 開催報告

主催：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

日時：平成28年8月6日(土)～平成28年8月7日(日)

会場：浜の町病院3階研修講堂 (福岡市中央区長浜3丁目3番1号)



平成28年8月6日(土)・7日(日)の2日に渡り、浜の町病院3階研修講堂におきまして、第8回「医師に対する緩和ケア研修会」を開催いたしました。この研修会は、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成20年4月1日付け健発

第0401016号厚生労働省健康局長通知)に基づき、毎年当院で開催されているものです。

院内外から緩和ケア・精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修を修了した経験豊富な指導者9名を集めて、研修会ファシリテーターを担当いただきました。さらに当院緩和ケアチームのメンバーが、研修会運営をサポートしました。これも院内外から2年次初期研修医から、臨



研修会企画責任者 浜の町病院 緩和医療内科 永山 淳

床経験3～5年目の若手医師、経験豊富ながん診療医まで、計41名が本研修会を受講されました。受講生は、緩和ケアに関する双方向性講義、ロールプレイ、グループ討議などに熱心に参加され、全員が全課程を修了されました。研修を修了された先生方には、本研修会を通じて学ばれた緩和ケアに関する基本的な知識や技術、態度を、明日からの臨床の場で患者さんとそのご家族のために役立てていただけたことと信じております。

最後に、受講生、ファシリテーター、スタッフなど多数の皆さまのご協力をいただき、研修会を無事終了することができましたこと、謹んでお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



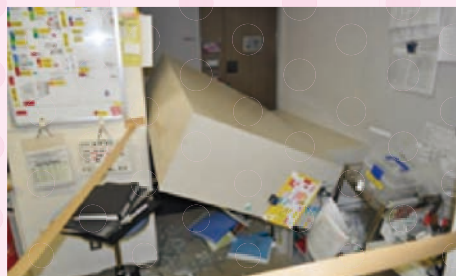
熊本地震の活動報告

災害支援活動 報告書



浜の町病院 循環器内科 松本 翔

2016年4月14日から発生した熊本地震を受け、4月25日から27日にかけて熊本中央病院にて救急外来の支援を行いました。震災から1週間ほど経過しており外傷は減じ、感染症や下肢静脈血栓症などが増加していたため、感染の拡大防止に重点が置かれていました。避難所や車中泊の方も見受けられ、避難生活のストレスも大きいようでした。震災後という特殊な環境と限られた資源の中での診療という貴重な経験となりました。



熊本への応援派遣を終えて



総合診療部 有田康佑

4月27、28日と熊本中央病院へ応援に行っていました。

市内の幾つかの病院は機能せず、普段より多くの患者さんが受診されました。震災関連の疾患は少なかったものの、患者さんは避難所生活で疲れ切った印象を強く受けました。

勿論物資の支援や身体的な健康の維持も必要ですが、精神的なケアの重要性を強く感じました。

今回被害に遭われた皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈っております。



第12回市民公開講座

平成28年7月25日（月）に第12回市民公開講座を開催しました。救急センター部長 廣津こう平医師より「熱中症について ～熱中症のメカニズムを知って賢く予防しよう！～」と題し、第1部「理解が深まる熱中症の理屈」、第2部「現場で出来ること」をお話させていただきました。身近な話題でもあり、暑さが日に日に増し夏が本格化するなかでしたが大勢の方にご参加いただきました。

講座では、身近にある氷や保冷剤、タオルを使って、実際の現場での対処方法の実演指導もあり熱心に聞き入られていました。熱中症が年々増加していますので今回の講座を役立てていただくと幸いです。

今後たくさんの方のご参加をお待ちしております。



好いと～福岡 笑うて生くばい!!

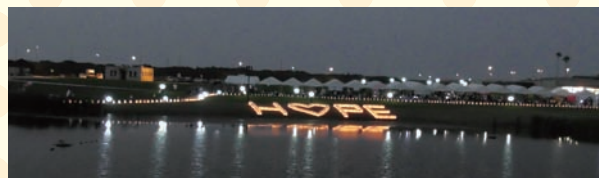
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016福岡

平成28年9月10日～11日 海の中道海浜公園 光と風の広場

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016福岡」に浜の町病院より「オーシャンブリーズ」というチームで参加しました。初回から参加しており、今年で8回目の参加となりました。

リレー・フォー・ライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、がん征圧をめざして24時間歩き続けるチャリティー活動です。

当日は天候も良く、ルミナリエに描かれた想いを感じながら歩きました。また、院内での募金やチャリティーのお菓子販売を行いまして多くの寄付金を届けることが出来ました。今後もこの活動に参加することで、がん患者さんや家族のために少しでも力になればと思います。



■ 救急患者紹介連絡先

月～金（8:30～17:15）

Tel 092-721-9913(連携課直通) / Fax 0120-721-991(連携課直通)

上記以外の時間及び土日祝

Tel 092-721-0831(病院代表)

(平成28年10月1日現在)

診療科	時間	専門	月	火	水	木	金
救急センター		総合診療部	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎
		救急	廣津こう平	廣津こう平	廣津こう平	廣津こう平	廣津こう平
		血液新患	衛藤 徹也	吉田周郎	衛藤 徹也	平安山英穂	河野 一郎
		血液再来	吉田周郎	衛藤・河野	平安山英穂	衛藤・松尾弥生	平安山英穂
		循環器新患	池田次郎	酒見拓矢	白井 真	船越祐子	塩見哲也
		循環器再来	塩見哲也	船越祐子	酒見拓矢	池田次郎	白井 真
		消化器	尾石義謙	瀬尾 充	瀬尾 充	浦岡尚平	尾石義謙
		腫瘍	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	田中吏佐	三ツ木健二
		肝臓	裴 成寛	高橋和弘	具嶋敏文	高橋和弘	高橋和弘
		呼吸器	前山隆茂	鶴田伸子	鶴田伸子	鶴田伸子	鶴田伸子
			水田佑一	前山隆茂	關 七重	前山隆茂	水田佑一
		糖尿病内分泌	澤田布美	平松真祐	平松真祐	澤田布美	平松・澤田
		腎臓	原 祥子	吉田鉄彦	出口孝史	出口孝史	吉田鉄彦
		膠原病	吉澤（予約再来のみ）	福元（予約再来のみ）	吉澤誠司	吉澤誠司	吉澤（予約再来のみ）
		感染症	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎	内田勇二郎
		総合診療	内田勇二郎	井上 健	当番医	内田勇二郎	当番医
脳神経センター	午前	脳外科	松角宏一郎 上坂十四夫 —	手術 紹介新患のみ (当番医)	松角宏一郎 上坂十四夫 —	手術 紹介新患のみ (当番医)	松角宏一郎 上坂十四夫 —
脳外科（月・水・金）の午後、 神経内科の午後は 紹介患者と予約のみ	午後	神経内科	松山友美	佐竹・松山	佐竹真理恵	佐竹・松山	佐竹（新患のみ）
		脳外科	松角宏一郎 前原直喜 —	手術 紹介新患のみ (当番医)	前原直喜 — —	手術 紹介新患のみ (当番医)	松角宏一郎 前原直喜 —
外科	午前	消化器・一般	許斐裕之 安藤鉄平 —	一宮 仁 植木 隆 安藤鉄平	前山 良 谷口隆之 —	許斐裕之 前山 良 池永直樹	植木 隆 池永直樹
※木曜日の午後は Dr大城戸への乳腺紹介のみ		呼吸器	—	—	松本耕太郎	松本耕太郎	—
		乳腺・甲状腺	大城戸・安藤	大城戸・安藤	谷口隆之	池永直樹	池永直樹
	午後	乳腺・甲状腺	—	—	—	大城戸政行	—
産婦人科	午前	産科	神保友香 上岡陽亮 藤原ありさ 竹内麗子 前原 都 友延尚子	藤原ありさ 大石博子 神保友香 中村友里恵 —	友延尚子 上岡陽亮 大石博子 竹内麗子 前原 都 中村友里恵	藤原ありさ 竹内麗子 前原 都 神保友香 —	中村友里恵 上岡陽亮 大石博子 藤原ありさ 神保友香 友延尚子
※受付時間 月・水・金 8:30～11:00 火・木 8:30～10:30 産科初診のみ婦人科で受付		婦人科	—	—	—	—	—
整形外科	午前	整形外科	手術 紹介新患のみ (当番医)	馬渡太郎 松井 元 新井貴之 河野紘一郎 高橋宗志	手術 紹介新患のみ (当番医)	松井 元 井口貴裕 光安浩章 河野紘一郎	馬渡太郎 井口貴裕 光安浩章 新井貴之
形成外科	午前	形成外科	松本大輔 江藤ひとみ	手術 紹介のみ（要TEL） 岩井（予約のみ） —	松本大輔 江藤ひとみ	手術 紹介のみ（要TEL） 山崎（予約のみ） —	松本大輔 江藤ひとみ 小藤秀嗣 岩井秀憲
泌尿器科	午前	泌尿器科	小藤秀嗣 山崎武成	岩井（予約のみ） —	小藤秀嗣 山崎武成	山崎（予約のみ） —	小藤秀嗣 岩井秀憲
午後は予約と紹介のみ	午後	泌尿器科	小藤・山崎（予約）	手術	小藤・山崎（予約）	手術	小藤・岩井（予約）
小児科	午前	小児科	園田有里	野田麻里絵	兒玉志保	武本環美	野田麻里絵
午後は予約のみ 内分泌 第3水曜日 循環器 第4木曜日のみ（予約）	午後	小児科	野田麻里絵 予防接種	回診	武本（小児神経） 内分泌（第3）	1ヶ月健診 循環器（第4）	園田有里 健診・予防接種
耳鼻咽喉科	午前	耳鼻科	野田哲平 友延恵理 — —	玉江昭裕 野田哲平 友延恵理 西山和郎	手術	玉江昭裕 野田哲平 友延恵理 西山和郎	玉江昭裕 西山和郎
眼科	午前	眼科	佐々由季生 応援医	手術 (当番医)	佐々由季生 西村太吾	手術 (当番医)	佐々由季生 西村太吾
皮膚科（新患は紹介のみ）	午前	皮膚科	竹内 聡 池田真希	池田真希 膳所菜保子	竹内 聡 池田真希	竹内 聡 膳所菜保子	竹内 聡 池田真希
放射線科	午前	放射線科	松浦隆志 角南俊也 鎌野宏礼 舩本博史	松浦隆志 角南俊也 鎌野宏礼 舩本博史	松浦隆志 角南俊也 鎌野宏礼 舩本博史	— — — —	— — — —
精神科	午後	精神科	—	—	九 大	—	九 大
緩和ケア外来	午後	緩和ケア外来	永山 淳	永山 淳	—	永山 淳	永山 淳
健康医学センター（要予約）	午前	外来ドック	高崎智子 久野千津子	高崎智子 久野千津子	高崎智子 久野千津子	高崎智子 久野千津子	高崎智子 久野千津子

受付時間：午前8:30～11:00 午後1:00～2:30

発行責任者／浜の町病院広報誌編集委員会
委員長 吉澤 誠司